



## スピードダイヤルの設定

この章では、Cisco Unified Communications Manager Express (Cisco Unified CME) で使用可能なスピードダイヤルのサポートについて説明します。

### このモジュールで紹介する機能情報の入手方法

お使いの Cisco Unified CME のバージョンが、このモジュールで説明されている機能の一部をサポートしていないことがあります。各機能がサポートされているバージョンのリストについては、「[スピードダイヤルに関する機能情報](#)」(P.1417) を参照してください。

## 内容

- 「[スピードダイヤルについて](#)」(P.1395)
- 「[スピードダイヤルの設定方法](#)」(P.1400)
- 「[スピードダイヤルの設定例](#)」(P.1413)
- 「[次の作業](#)」(P.1415)
- 「[その他の参考資料](#)」(P.1415)
- 「[スピードダイヤルに関する機能情報](#)」(P.1417)

## スピードダイヤルについて

スピードダイヤルをイネーブルにするには、次の概念について理解しておく必要があります。

- 「[スピードダイヤルの概要](#)」(P.1396)
- 「[短縮ダイヤル ボタンと短縮ダイヤル](#)」(P.1397)
- 「[Bulk-Loading スピードダイヤル番号](#)」(P.1397)
- 「[スピードダイヤル用モニタ回線ボタン](#)」(P.1398)
- 「[DSS \(ダイレクトステーション選択\) サービス](#)」(P.1399)
- 「[スピードダイヤルおよびファストダイヤル用の電話機ユーザインターフェイス](#)」(P.1399)

## スピードダイヤルの概要

スピードダイヤルを使用すると、電話機ユーザはリストから番号を簡単にダイヤルすることができます。さまざまなタイプのスピードダイヤルについて、表 130 にまとめます。

表 130 スピードダイヤルのタイプ

スピードダイヤルのタイプ	使用可能な番号	説明	設定方法
[ローカル短縮ダイヤル (Local Speed Dial)] メニュー	頻繁にコールする番号のシステムレベルのリストです。すべての電話機上でプログラムできます。 最大 32 個の番号を定義できます。 番号は、XML ファイル speeddial.xml を使用して管理者が設定します。このファイルは Cisco Unified CME ルータのフラッシュメモリに配置されます。	ユーザは、IP Phone で [ディレクトリ (Directories)] > [ローカル短縮ダイヤル (Local Speed Dial)] メニューからエントリを呼び出します。	「ローカル短縮ダイヤルメニューのイネーブル化」 (P.1400)。
[個人短縮ダイヤル (Personal Speed Dial)] メニュー	スピードダイヤルのエントリは特定の IP Phone に対してローカルなものになります。 電話機 1 台あたり最大 24 個の番号を定義できます。	ユーザは、IP Phone の [ディレクトリ (Directories)] > [ローカルサービス (Local Services)] > [個人短縮ダイヤル (Personal Speed Dials)] メニューからエントリを呼び出します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「SCCP : 個人短縮ダイヤルメニューのイネーブル化」 (P.1404)</li> <li>「SIP : 個人短縮ダイヤルメニューの設定」 (P.1411)。</li> </ul>
短縮ダイヤル ボタンと短縮ダイヤル	電話機 1 台あたり最大 99 個のスピードダイヤルコード。	IP Phone では、セットアップされた最初のエントリが未使用のすべての回線ボタンに割り当てられ、ユーザがこれらの回線ボタンの 1 つを押したときに呼び出されます。以降のエントリは、電話機ユーザがスピードダイヤルコード (タグ)、および [短縮 (Abbr)] ソフトキーをダイヤルしたときに呼び出されます。  アナログ電話機ユーザは、アスタリスクの後に対象エントリのスピードダイヤルコード (タグ) 番号を入力して、スピードダイヤルを呼び出します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「SCCP : 短縮ダイヤル ボタンと短縮ダイヤル機能の定義」 (P.1405)</li> <li>「SIP : 短縮ダイヤル ボタンの定義」 (P.1410)。</li> </ul>
Bulk-Loading スピードダイヤル番号	多数のスピードダイヤル番号リストを含むテキスト ファイルを最大 10 個定義でき、電話機ユーザがアクセスするフラッシュ、スロット、または TFTP ロケーションにロードすることができます。10 個のファイルに 10,000 個の番号を保持することができます。	電話機ユーザは次のシーケンスでダイヤルします。 <i>prefix-code list-id index</i> [ <i>extension-digits</i> ]	「SCCP : Bulk-Loading スピードダイヤルのイネーブル化」 (P.1407)。

表 130 スピードダイヤルのタイプ

スピードダイヤルのタイプ	使用可能な番号	説明	設定方法
スピードダイヤル用モニタ回線ボタン	スピードダイヤルのエントリーは特定の IP Phone に対してローカルなものになります。 電話機のモニタ回線と同じ数だけ番号を持つことができます。	モニタ回線として設定されている IP Phone のボタンを使用して、モニタされている回線にスピードダイヤルすることができます。	追加設定は必要ありません。
ダイレクトステーション選択 (DSS) サービス	スピードダイヤル回線またはモニタ回線ボタンが設定されているすべての電話機。	電話機ユーザは、スピードダイヤル回線またはモニタ回線ボタンを1つ押して、コールを高速転送することができます。	「SCCP : DSS サービスのイネーブル化」(P.1403)。

## 短縮ダイヤル ボタンと短縮ダイヤル

Cisco Unified CME システムでは、各電話機に最大 32 個のローカル短縮ダイヤル番号 (コード 1 ~ 32)、最大 99 個のシステムレベルのスピードダイヤル番号 (コード 1 ~ 99)、またはこれら 2 つの番号の組み合わせを持つことが可能です。同じスピードダイヤルコード (タグ) でローカルとシステムレベルの両方のスピードダイヤル番号をプログラムした場合は、ローカル番号が優先されます。通常、コード 1 ~ 32 はローカルの電話機ごとのスピードダイヤル番号用に確保し、コード 33 ~ 99 はシステムレベルのスピードダイヤル番号用にして、競合しないようにします。

IP Phone では、スピードダイヤルエントリーは未使用の回線ボタンに割り当てられます。すべての回線ボタンが使用されていると、以降のエントリーは追加されますが、回線ボタンには割り当てられません。スピードダイヤルエントリーは、電話機の物理的なボタンレイアウトには関連しません。エントリーは、スピードダイヤルタグの順に割り当てられます。

電話機からは変更できない、ロックされている番号を使用して、ローカルなスピードダイヤルコードを作成できます。また、IP Phone で電話番号のない空のローカル短縮ダイヤルコードを作成することもできます。これらの空のスピードダイヤルコードは、電話機ユーザが変更して電話番号を追加することができます。

スピードダイヤルエントリーに対する変更は、タイマーベースの遅延の後でルータの不揮発性ランダムアクセスメモリ (NVRAM) コンフィギュレーションに保存されます。

設定については、「SCCP : 短縮ダイヤル ボタンと短縮ダイヤル機能の定義」(P.1405) を参照してください。

## Bulk-Loading スピードダイヤル番号

Cisco Unified CME 4.0 以降のバージョンでは、多数のスピードダイヤル番号リストを含むテキストファイルを最大 10 個定義でき、電話機ユーザがアクセスするフラッシュ、スロット、または TFTP ロケーションにロードすることができます。10 個のファイルには合計で、最大 10,000 個の番号を保持できます。各リストには、IP Phone および SCCP 対応のアナログ電話からのダイヤルに適した形式で、番号が保持されます。

最大 10 個のバルクスピードダイヤルリストを作成することができます。このようなリストとしては、社内ディレクトリリスト、地域リスト、ローカルリストなどがあります。これらのリストのスピードダイヤル番号は、システムレベルにする (すべての ephone で使用できるようにする) ことも、個人レベルにする (1 台以上の特定の ephone で使用できるようにする) こともできます。各リストには、0 ~ 9 の一意のスピードダイヤルリスト ID 番号 (sd-id) が与えられます。

グローバルなスピードダイヤルリストで使用されないスピードダイヤルリスト ID 番号は、個々の電話機に関連付けられている個人のカスタムリストの識別に使用できます。

バルクスピードダイヤルリストには、スピードダイヤルコード、およびダイヤルするために関連付けられた電話番号のエントリが含まれています。スピードダイヤルリストは、エントリごとに行を分ける必要があります。各エントリのフィールドは、カンマ (,) で区切ります。セミコロン (;) で始まる行は、コメントとして処理されます。各エントリの形式を次の行に示します。

```
index,digits,[name],[hide],[append]
```

表 131 に、バルクスピードダイヤルエントリのフィールドの説明を示します。

表 131 バルクスピードダイヤルリストのエントリ

フィールド	説明
<i>index</i>	このインデックスエントリを一意に識別する、先行ゼロ付きの番号。最大長：4 桁。インデックスエントリはすべて同じ長さにする必要があります。
<i>digits</i>	ダイヤルする電話番号。完全修飾された E.164 番号を表します。1 秒間の一時停止を表すには、カンマ (,) を使用します。
<i>name</i>	(任意) 名前を識別するための、最大 30 字の英数字による文字列。
<b>hide</b>	(任意) ダイヤルした番号を非表示にするには、 <b>hide</b> を入力します。
<b>append</b>	(任意) ダイヤルするときに、この番号に数字を付加できるようにするには <b>append</b> を入力します。

以下に、バルクスピードダイヤルリストの例を示します。

```
01,5550140,voicemail,hide,append
90,914085550153,Cisco extension,hide,append
11,9911,emergency,hide,
91,9911,emergency,hide,
08,110,Paging,,append
```

リスト内のスピードダイヤルエントリにコールを発信するには、電話機ユーザは最初にプレフィックスをダイヤルしてから、リスト ID 番号、およびコールするバルクスピードダイヤルリストエントリのインデックスの順にダイヤルする必要があります。

設定については、「[SCCP : Bulk-Loading スピードダイヤルのイネーブル化](#)」(P.1407) を参照してください。

## スピードダイヤル用モニタ回線ボタン

Cisco CME 3.2 以降のバージョンでは、モニタ回線ボタンを使用すると、モニタ回線の番号をスピードダイヤルできます。モニタ回線とは、2 人のユーザが共有する回線です。共有回線では、一度に一方のユーザだけが発信および受信できます。このときもう一方のユーザは自分の回線がモニタモードになるため、回線が使用中であることがわかります。スピードダイヤルは、モニタ回線のランプが消灯し、

回線が使用されていないことを示しているときに使用できます。たとえば、マネージャと会話しようとするアシスタントは、消灯しているモニタ回線のボタンを押して、マネージャの番号をスピードダイヤルすることができます。

モニタ回線ランプがオフ（消灯）になるのは、その回線がアイドルコール状態のときだけです。アイドル状態になるのは、コールの発信前、およびコールの完了後です。それ以外のコール状態では、モニタ回線ランプがオン（点灯）になります。

次の例は、モニタ回線の設定を示しています。内線 2311 はマネージャの回線で、**ephone 1** はマネージャの電話機です。マネージャのアシスタントが内線 2311 を **ephone 2** のボタン 2 でモニタします。マネージャが回線を使用すると、アシスタントの電話機のランプが点灯します。ランプが点灯していない場合は、アシスタントはボタン 2 を押して、マネージャの番号をスピードダイヤルすることができます。

```
ephone-dn 11
  number 2311
```

```
ephone-dn 22
  number 2322
```

```
ephone 1
  button 1:11
```

```
ephone 2
  button 1:22 2m11
```

モニタされている回線がアイドルコール状態の場合に、電話機ユーザが、モニタされている共有回線の番号をスピードダイヤルできるようにするための追加設定は不要です。

## DSS（ダイレクトステーション選択）サービス

Cisco Unified CME 4.0(2) 以降のバージョンでは、DSS（ダイレクトステーション選択）サービス機能を使用すると、コールが接続状態のときに、電話機ユーザはスピードダイヤル回線ボタンを 1 回押して、着信コールを転送できます。この機能は、スピードダイヤル用のモニタ回線ボタンまたはスピードダイヤル回線ボタンが設定されている、すべての電話機でサポートされます。

DSS サービスがイネーブルになっていると、シミュレートした転送キーイベントを、システムが必要に応じて自動的に生成し、電話機ユーザが [転送 (Transfer)] ボタンを押す必要がなくなります。

このサービスをディセーブルにすると、すべての IP Phone でスピードダイヤル回線ボタンの動作が変化し、接続されたコールの途中でユーザが短縮ダイヤルボタンを押すと、コールは転送されず、スピードダイヤル番号のダイヤルトーンが相手に聞こえます。DSS サービスがディセーブルになっている場合、電話機ユーザが着信コールを転送するには、最初に転送ボタンを押してから、モニタまたはスピードダイヤル回線ボタンを押す必要があります。

設定については、「[ローカル短縮ダイヤルメニューのイネーブル化](#)」(P.1400) を参照してください。

## スピードダイヤルおよびファストダイヤル用の電話機ユーザインターフェイス

Cisco Unified CME 4.3 以降のバージョンでは、IP Phone ユーザは、独自のスピードダイヤルおよびファストダイヤル設定を電話機で直接設定できます。[サービス (Services)] 機能ボタンに用意されたメニューを使用すると、電話機上でスピードダイヤルおよびファストダイヤルの設定を追加または

変更できます。エクステンション モビリティ ユーザは、ログイン後に自分のユーザ プロファイルでスピードダイヤル設定を追加または変更できます。ファストダイヤル設定はエクステンション モビリティの電話機から設定できません。また、ログアウトプロファイルも電話機から設定できません。

以前は、電話機に対してスピードダイヤルおよびファストダイヤルを設定する場合に、Cisco Unified CME または Web ベースの GUI を使用する必要がありました。この機能により、電話機ユーザは自分のスピードダイヤルおよびファストダイヤルを、自分の電話機から直接設定できます。

スピードダイヤルおよびファストダイヤルのユーザ インターフェイスは、ディスプレイを持つすべての電話機で、デフォルトで使用できます。Cisco Unified CME で、電話機ユーザがインターフェイスにアクセスしないように、個々の電話機でこの機能をディセーブルにすることができます。電話機のスピードダイヤルまたはファストダイヤルの設定が `ephone-template` で設定されている場合、電話機からの設定は特定の電話機のみ適用され、`ephone-template` の設定は変更されません。

設定については、「[SCCP : スピードダイヤルおよびファストダイヤル用ユーザ インターフェイスのイネーブル化](#)」(P.1409) を参照してください。

電話機のユーザが電話機のユーザ インターフェイスを使用して、スピードダイヤルおよびファストダイヤル ボタンを設定する方法の詳細については、Cisco Unified CME 用の『[Cisco Unified IP Phone documentation](#)』を参照してください。

## スピードダイヤルの設定方法

ここでは、次の作業について説明します。

- 「[ローカル短縮ダイヤル メニューのイネーブル化](#)」(P.1400)
- 「[SCCP : DSS サービスのイネーブル化](#)」(P.1403)
- 「[SCCP : 個人短縮ダイヤル メニューのイネーブル化](#)」(P.1404)
- 「[SCCP : 短縮ダイヤル ボタンと短縮ダイヤル機能の定義](#)」(P.1405)
- 「[SCCP : Bulk-Loading スピードダイヤルのイネーブル化](#)」(P.1407)
- 「[SCCP : バルク スピードダイヤルパラメータの確認](#)」(P.1408)
- 「[SCCP : スピードダイヤルおよびファストダイヤル用ユーザ インターフェイスのイネーブル化](#)」(P.1409)
- 「[SIP : 短縮ダイヤル ボタンの定義](#)」(P.1410)
- 「[SIP : 個人短縮ダイヤル メニューの設定](#)」(P.1411)

### ローカル短縮ダイヤル メニューのイネーブル化

Cisco Unified CME で、すべての電話機 (SCCP および SIP) に対してローカル短縮ダイヤル メニューをイネーブルにするには、次の手順を実行します。

#### 前提条件

`speeddial.xml` という XML ファイルを作成し、Cisco Unified CME ルータの TFTP サーバアプリケーションにコピーしておく必要があります。`speeddial.xml` の内容は、シスコが指定したディレクトリ DTD の定義に従った有効なものにする必要があります。「[ローカル短縮ダイヤル メニューのイネーブル化 : 例](#)」(P.1413) および『[Cisco Unified IP Phone Services Application Development Notes](#)』を参照してください。

## 制約事項

- エントリで名前やテンプレート番号が不足しているなど、speed dial XML ファイルに含まれた情報が不完全な場合に、ローカル短縮ダイヤルのディレクトリ オプションが電話機で使用されると、ファイル内で不足しているエントリの後にリストされた情報がすべて表示されなくなります。
- Cisco Unified CME 4.1 よりも前は、SIP 電話機でローカル短縮ダイヤル メニューがサポートされていませんでした。
- Cisco CME 3.3 よりも前は、アナログ電話機で使用できるスピードダイヤルの番号が 9 個に制限されていました。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **copy tftp flash**
3. **configure terminal**
4. **ip http server**
5. **ip http path flash:**
6. **exit**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<p><b>enable</b></p> <p>例： Router&gt; enable</p>	<p>特権 EXEC モードをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。</li> </ul>
ステップ2	<p><b>copy tftp flash</b></p> <p>例： Router# copy tftp flash</p> <pre>Address or name of remote host []? 172.24.59.11 Source filename []? speeddial.xml Destination filename [speeddial.xml]? Accessing tftp://172.24.59.11/speeddial.xml... Erase flash: before copying? [confirm]n Loading speeddial.xml from 172.24.59.11 (via FastEthernet0/0):! [OK - 329 bytes]  Verifying checksum... OK (0xF5DB) 329 bytes copied in 0.044 secs (7477 bytes/sec)</pre>	<p>TFTP サーバからルータのフラッシュ メモリにファイルをコピーします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 最初のプロンプトで、リモートホストの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。</li> <li>• 両方のファイル名プロンプトで、<b>speeddial.xml</b> と入力します。</li> <li>• フラッシュの消去を求めるプロンプトで、<b>no</b> と入力します。</li> </ul>
ステップ3	<p><b>configure terminal</b></p> <p>例： Router# configure terminal</p>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。</p>

## ■ スピードダイヤルの設定方法

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ4	<code>ip http server</code>  例： Router(config)# ip http server	ルータで Cisco Web ブラウザ ユーザ インターフェイスをイネーブルにします。
ステップ5	<code>ip http path flash:</code>  例： Router(config)# ip http path flash:	基本の HTTP パスをフラッシュ メモリに設定します。
ステップ6	<code>exit</code>  例： Router(config)# exit	特権 EXEC モードに戻ります。



## SCCP : DSS サービスのイネーブル化

スピードダイヤル用のモニタ回線ボタン、またはスピードダイヤル回線ボタンが設定されているすべての SCCP 電話機で DSS サービスをイネーブルにするには、次の手順を実行します。

### 前提条件

Cisco Unified CME 4.0(2) 以降のバージョン。

### 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `telephony-service`
4. `service dss`
5. `end`

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>enable</code>  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<code>configure terminal</code>  例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>telephony-service</code>  例： Router(config)# telephony-service	<code>telephony-service</code> コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<code>service dss</code>  例： Router(config-telephony)# service dss	Cisco Unified CME で、すべての電話機ユーザに対して DSS (ダイレクトステーション選択) サービスをグローバルに設定します。
ステップ 5	<code>end</code>  例： Router(config-telephony)# end	コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

## SCCP : 個人短縮ダイヤルメニューのイネーブル化

個人短縮ダイヤルメニューをイネーブルにするには、次の手順を実行します。

### 制約事項

- 個人短縮ダイヤルメニューを使用できるのは、Cisco Unified IP Phone 7940、7960、7960G、7970G、および 7971G-GE のみです。ご使用の IP Phone で個人短縮ダイヤルメニューがサポートされているかどうかを確認するには、その IP Phone モデルの『[Cisco Unified CME user guide](#)』を参照してください。

### 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `ephone phone-tag`
4. `fastdial dial-tag number name name-string`
5. `end`

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>enable</code>  例: Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ2	<code>configure terminal</code>  例: Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>ephone phone-tag</code>  例: Router(config)# ephone 1	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。  • <i>phone-tag</i> : 個人短縮ダイヤル番号をプログラムする電話機の一意の番号。
ステップ4	<code>fastdial dial-tag number name name-string</code>  例: Router(config-ephone)# fastdial 1 5552 name Sales	この電話機に個人短縮ダイヤル番号のエントリを作成します。  • <i>dial-tag</i> : 設定時にこのエントリを識別する固有識別子。範囲は 1 ~ 24 です。  • <i>number</i> : ダイヤルする電話番号または内線番号。  • <i>name name-string</i> : [ 個人短縮ダイヤル (Personal Speed Dial) ] メニューに表示されるラベル。英数字の文字列で、24 字まで指定できます。個人短縮ダイヤルは、XML 要求を通じて処理されます。そのため、アンパサンド (&)、パーセント記号 (%)、セミコロン (;)、山カッコ (<>)、縦棒 ( ) など、HTTP に対して特別な意味を持つ文字は使用できません。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ5	end  例： Router(config-ephone)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

## SCCP : 短縮ダイヤル ボタンと短縮ダイヤル機能の定義

短縮ダイヤル ボタンと短縮ダイヤル コードを定義するには、設定対象のスピードダイヤルの定義ごとに、次の手順を実行します。

### 制約事項

- [短縮 (Abbr)] ソフトキーを使用したオンフック短縮ダイヤル機能がサポートされるのは、次の電話機のみです。
  - Cisco Unified IP Phone 7905G
  - Cisco Unified IP Phone 7912G
  - Cisco Unified IP Phone 7920G
  - Cisco Unified IP Phone 7970G
  - Cisco Unified IP Phone 7971G-GE
- システムレベルのスピードダイヤル コードは、電話機ユーザが電話機で変更することはできません。
- Cisco CME 3.3 よりも前は、アナログ電話機で使用できるスピードダイヤルの番号が9個に制限されていました。
- Cisco CME 3.3 よりも前は、電話機で使用できる物理的なボタンの数を超えるスピードダイヤル エントリは、IP Phone で無視されました。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone *phone-tag***
4. **speed-dial *speed-tag digit-string* [*label label-text*]**
5. **exit**
6. **telephony-service**
7. **directory entry {*directory-tag number name name* | **clear**}**
8. **end**

## ■ スピードダイヤルの設定方法

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<b>enable</b>  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ2	<b>configure terminal</b>  例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<b>ephone phone-tag</b>  例： Router(config)# ephone 55	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。  • <i>phone-tag</i> : スピードダイヤル機能を追加する電話機を識別する一意のシーケンス番号。
ステップ4	<b>speed-dial speed-tag digit-string [label label-text]</b>  例： Router(config-ephone)# speed-dial 1 +5001 label "Head Office"	一意のスピードダイヤル ID、ダイヤルする数字列、ボタンの横に表示するオプションのラベルを定義します。  • <i>speed-tag</i> : スピードダイヤル定義の ID。範囲は 1 ~ 33 です。
ステップ5	<b>restart</b>  例： Router(config-ephone)# restart	この ephone の高速リブートを実行します。DHCP または TFTP サーバに接続して、最新情報を取得することは行われません。
ステップ6	<b>exit</b>  例： Router(config-ephone)# exit	コンフィギュレーション モードを終了して、コンフィギュレーション モード階層で次に高いレベルのモードを開始します。
ステップ7	<b>telephony-service</b>  例： Router(config)# telephony-service	telephony-service コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ8	<b>directory entry {{directory-tag number name name}   clear}</b>  例： Router(config-telephony)# directory entry 45 8185550143 name Corp Acctg	システムレベルのディレクトリおよびスピードダイヤル定義を追加します。  • <i>directory-tag</i> : このエントリの固有識別子となる数字列。範囲は 1 ~ 99 です。  • <b>speed-dial</b> コマンドを使用して、同じタグ 1 ~ 33 が電話機レベルで設定され、このコマンドを使用してシステムレベルでも設定されている場合は、ローカル定義が優先されます。この競合を防止するには、システムレベルのスピードダイヤル番号には 34 ~ 99 のコードだけを使用することを推奨します。
ステップ9	<b>end</b>  例： Router(config-telephony)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

## SCCP : Bulk-Loading スピードダイヤルのイネーブル化

Bulk-Loading スピードダイヤル番号をイネーブルにするには、次の手順を実行します。

### 前提条件

- Cisco Unified CME 4.0 以降のバージョン。
- リストが格納されたバルク スピードダイヤルテキストファイルは、Cisco Unified CME ルータからアクセス可能な場所（フラッシュ、スロット、または TFTP ロケーション）で使用可能な状態になっていること。

### 制約事項

- バルク スピードダイヤルは、FXO トランク回線でサポートされません。

### 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `telephony-service`
4. `bulk-speed-dial list list-id location`
5. `bulk-speed-dial prefix prefix-code`
6. `end`

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>enable</code>  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ2	<code>configure terminal</code>  例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>telephony-service</code>  例： Router(config)# telephony-service	<code>telephony-service</code> コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ4	<b>bulk-speed-dial list</b> <i>list-id</i> <i>location</i>  <b>例:</b> Router(config-telephony)# bulk-speed-dial list 6 flash:sd_dept_0_1_8.txt	バルク スピードダイヤル リストの場所を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>list-id</i> : 使用するリストを識別する数字。範囲は 0 ~ 9 です。</li> <li>• <i>location</i> : URL 形式によるバルク スピードダイヤル テキスト ファイルの場所。有効な保存場所は、TFTP、スロット 0/1、およびフラッシュ メモリです。</li> <li>• 特定の電話機に対して、<b>ephone</b> コンフィギュレーション モードでこのコマンドを設定することもできます。</li> </ul>
ステップ5	<b>bulk-speed-dial prefix</b> <i>prefix-code</i>  <b>例:</b> Router(config-telephony)# bulk-speed-dial prefix #7	電話機ユーザがバルク スピードダイヤル リストからスピードダイヤル番号にアクセスするときにダイヤルする、プレフィックス コードを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>prefix-code</i> : スピードダイヤル用の 1 ~ 2 文字のアクセス コード。有効な文字は、0 ~ 9 の数字、アスタリスク (*)、およびシャープ記号 (#) です。デフォルトは # です。</li> </ul>
ステップ6	<b>end</b>  <b>例:</b> Router(config-telephony)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

## SCCP : バルク スピードダイヤルパラメータの確認

### show telephony-service bulk-speed-dial

このコマンドを使用して、スピードダイヤル リストの情報を表示します。

```
Router# show telephony-service bulk-speed-dial summary
```

```
List-id    Entries    Size    Reference    url
    0         40      3840    Global      tftp://192.168.254.254/phonedirs/uut.csv
    1         20      1920    Global      phoneBook.csv
    8         15      1440    Global      tftp://192.168.254.254/phonedirs/big.txt
    9         20      1920    Global      tftp://192.168.254.254/phonedirs/phoneBook.csv
    6        24879   2388384 ephone-2    tftp://192.168.254.254/phonedirs/big.txt1
    7         20      1920    ephone-2    phoneBook.csv
    6        24879   2388384 ephone-3    big.txt1
    7         20      1920    ephone-3    phoneBook.csv
```

```
4 Global List(s) 4 Local List(s)
```

# SCCP : スピードダイヤルおよびファストダイヤル用ユーザインターフェイスのイネーブル化

電話機ユーザが自分の電話機のメニューからスピードダイヤルおよびファストダイヤルの番号を設定できるようにするには、次の手順を実行します。この機能はデフォルトでイネーブルになっています。この作業を実行する必要があるのは、この機能が電話機でディセーブルになっている場合のみです。

## 前提条件

- Cisco Unified CME 4.3 以降のリリース。
- サービス URL が設定されていること。「SCCP : 機能ボタンの URL のプロビジョニング」(P.1524) を参照してください。

## 制約事項

エクステンション モビリティ ユーザは、自分の電話機から（個人短縮ダイヤルに対して）ファストダイヤルを設定できません。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone *phone-tag***
4. **phone-ui speeddial-fastdial**
5. **end**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<b>enable</b>  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ2	<b>configure terminal</b>  例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<b>ephone <i>phone-tag</i></b>  例： Router(config)# ephone 12	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。  • <i>phone-tag</i> : 設定タスク中にこの ephone を識別する一意の番号。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ4	<pre>phone-ui speeddial-fastdial</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config-ephone)# phone-ui speeddial-fastdial</pre>	<p>電話機ユーザが、自分の電話機からスピードダイヤルおよびファストダイヤルの番号を設定できるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このコマンドはデフォルトでイネーブルになっています。</li> </ul>
ステップ5	<pre>end</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config-ephone)# end</pre>	<p>特権 EXEC モードに戻ります。</p>

## 次の作業

UI を使用して、電話機ユーザがスピードダイヤルおよびファストダイヤルボタンを設定する方法の詳細については、Cisco Unified CME 用の『[Cisco Unified IP Phone documentation](#)』を参照してください。

## SIP : 短縮ダイヤル ボタンの定義

Cisco SIP IP Phone の短縮ダイヤル ボタンを定義するには、次の手順を実行します。

### 前提条件

Cisco CME 3.4 以降のバージョン。

### 制約事項

- Cisco Unified IP Phone 7960 や 7940 など一部の SIP IP Phone では、スピードダイヤルをイネーブルに設定できません。これらの電話機のユーザは、Cisco Unified IP Phone のユーザインターフェイスを使用して、スピードダイヤル番号を手動で設定する必要があります。
- Cisco Unified IP Phone では、スピードダイヤルの定義は、実際の内線番号に割り当てられていない、使用可能なボタンに割り当てられます。スピードダイヤル定義は、その ID 番号順に割り当てられます。
- Cisco ATA デバイスが搭載された電話機では、使用できるスピードダイヤル番号の数が 9 個に制限されます。電話機のユーザインターフェイスを使用して、スピードダイヤルの番号をプログラムすることはできません。

### 手順の概要

- enable
- configure terminal
- voice register pool *pool-tag*
- speed-dial *speed-tag digit-string* [*label label-text*]
- end



手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>enable</code>  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ2	<code>configure terminal</code>  例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>voice register pool pool-tag</code>  例： Router(config)# voice register pool 23	音声レジスタ プール コンフィギュレーション モードを開始して、指定した SIP 電話機にパラメータを設定します。
ステップ4	<code>speed-dial speed-tag digit-string [label label-text]</code>  例： router(config-register-pool)# speed-dial 2 +5001 label "Head Office"	Cisco Unified CME で、SIP 電話機、またはアナログアダプタ (ATA) を使用するアナログ電話機に対して、スピードダイヤルの定義を作成します。  • <i>speed-tag</i> : 設定時にスピードダイヤル定義を識別する一意のシーケンス番号。範囲は 1 ~ 5 です。
ステップ5	<code>end</code>  例： Router(config-register-pool)# end	コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

例

次の例は、本社の内線 5001 にダイヤルするよう短縮ダイヤル ボタン 2 を設定し、電話機ユーザが電話機で設定を変更できないように設定をロックする方法を示しています。

```
Router(config)# voice register pool 23
Router(config-register-pool)# speed-dial 2 +5001 label "Head Office"
```

SIP : 個人短縮ダイヤルメニューの設定

SIP 電話機に最大 24 個の個人短縮ダイヤル番号を定義するには、次の手順を実行します。

前提条件

- Cisco Unified CME 4.1 以降のバージョン。

制約事項

- Cisco Unified IP Phone 7941G、7941GE、7961G、7961GE、7970G、および 7971GE では、この手順を使用した場合のみ Cisco Unified CME で個人短縮ダイヤル番号を作成できます。

- Cisco Unified IP Phone 7905、7912、7940、および 7960 では、スピードダイヤル番号は、ユーザが電話機で直接作成することのみが可能で、Cisco Unified CME では作成できません。ご使用の IP Phone で直接スピードダイヤルをプログラムする必要があるかどうかを判断するには、その IP Phone モデルの『[Cisco Unified CME user guide](#)』を参照してください。

## 手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `voice register pool pool-tag`
4. `fastdial dial-tag number [name name-string]`
5. `end`

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>enable</code>  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ2	<code>configure terminal</code>  例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>voice register pool pool-tag</code>  例： Router(config-register-pool)# voice register pool 1	音声レジスタ プール コンフィギュレーション モードを開始して、SIP 電話機の電話機固有パラメータを設定します。  • <code>pool-tag</code> : 設定する SIP 電話機の一意的シーケンス番号。範囲はバージョンとプラットフォームに依存します。範囲を表示するには、 <code>?</code> と入力します。 <code>max-pool</code> コマンドを使用すると、この引数の上限を変更できます。

コマンドまたはアクション	目的
<p><b>ステップ4</b> <code>fastdial dial-tag number [name name-string]</code></p> <p><b>例:</b>                      Router(config-register-pool)# <code>fastdial 1 5552</code>  <code>name Sales</code></p>	<p>この SIP 電話機に個人短縮ダイヤル番号を作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>dial-tag</i> : 設定時にこのエントリを識別する一意の番号。範囲 : 1 ~ 24。</li> <li>• <i>number</i> : ダイヤルする電話番号または内線番号。</li> <li>• <i>name name-string</i> : (任意) [ 個人短縮ダイヤル (Personal Speed Dial) ] メニューに表示されるラベル。英数字の文字列で、最大 24 文字まで指定できます。個人短縮ダイヤルは、XML 要求を通じて処理されます。そのため、アンパサンド (&amp;)、パーセント記号 (%)、セミコロン (;)、山カッコ (&lt;&gt;)、縦棒 ( ) など、HTTP に対して特別な意味を持つ文字は使用できません。</li> <li>• この電話機で作成する個人短縮ダイヤル番号ごとに、このコマンドを繰り返します。</li> </ul>
<p><b>ステップ5</b> <code>end</code></p> <p><b>例:</b>                      Router(config-register-pool)# <code>end</code></p>	<p>特権 EXEC モードに戻ります。</p>

## スピードダイヤルの設定例

この項では、次の例について説明します。

- 「ローカル短縮ダイヤルメニューのイネーブル化 : 例」 (P.1413)
- 「個人短縮ダイヤルメニュー : 例」 (P.1414)
- 「短縮ダイヤル ボタンと短縮ダイヤル : 例」 (P.1414)
- 「Bulk-Loading スピードダイヤル : 例」 (P.1414)
- 「スピードダイヤルとファストダイヤルのユーザインターフェイス : 例」 (P.1415)

### ローカル短縮ダイヤルメニューのイネーブル化 : 例

次のコマンドでは、Cisco Web ブラウザをイネーブルにして、HTTP パスをフラッシュメモリに設定し、フラッシュメモリ内の speeddial.xml ファイルに IP Phone がアクセスできるようになります。

```
ip http server
ip http path flash:
```

次の XML ファイル (speeddial.xml) は、ユーザが IP Phone で [ ディレクトリ (Directories) ] ボタンを押した後に表示される 3 つのスピードダイヤル番号を定義します。

```
<CiscoIPPhoneDirectory>
<Title>Local Speed Dial</Title>
<Prompt>Record 1 to 1 of 1 </Prompt>

<DirectoryEntry>
  <Name>Security</Name>
  <Telephone>71111</Telephone>
</DirectoryEntry>
```

```

<DirectoryEntry>
  <Name>Marketing</Name>
  <Telephone>71234</Telephone>
</DirectoryEntry>

<DirectoryEntry>
  <Name>Tech Support</Name>
  <Telephone>71432</Telephone>
</DirectoryEntry>

</CiscoIPPhoneDirectory>

```

## 個人短縮ダイヤル メニュー : 例

次の例では、1 台の IP Phone に 3 つの個人短縮ダイヤル リストを持つディレクトリを作成します。

```

ephone 1
 fastdial 1 5489 name Marketing
 fastdial 2 12125550155 name NY Sales
 fastdial 3 12135550112 name LA Sales

```

## 短縮ダイヤル ボタンと短縮ダイヤル : 例

次の例では、ロックされた 2 つのスピードダイヤル番号を定義し、そのラベルが ephone 1 の短縮ダイヤル ボタンの横に表示されるようにします。これらのスピードダイヤル定義は、内線番号がすべて割り当てられた後で、次の空のボタンに割り当てられます。たとえば、Cisco Unified IP Phone 7960 および 7960G で 2 つの内線番号が割り当てられている場合、これらのスピードダイヤル定義は 3 番めと 4 番めのボタンに表示されます。

この例では、**directory entry** コマンドを使用して 2 つのシステムレベルのスピードダイヤル番号も定義しています。1 つはローカル内線番号で、もう 1 つは 10 桁の電話番号です。

```

ephone 1
 mac-address 1234.5678.ABCD
 button 1:24 2:25
 speed-dial 1 +5002 label Receptionist
 speed-dial 2 +5001 label Security

telephony-service
 directory entry 34 5003 name Accounting
 directory entry 45 8185550143 name Corp Acctg

```

## Bulk-Loading スピードダイヤル : 例

次の例では、バルク スピードダイヤルのデフォルトのプレフィックスを #7 に変更し、グローバルなバルク スピードダイヤル リスト番号 6 をすべての電話機に対してイネーブルにします。また、個人バルク スピードダイヤル リストを ephone 25 に対してイネーブルにします。

```

telephony-service
 bulk-speed-dial list 6 flash:sd_dept_01_1_87.txt
 bulk-speed-dial prefix #7

ephone-dn 3
 number 2555

ephone-dn 4

```

```
number 2557

ephone 25
  button 1:3 2:4
  bulk-speed-dial list 7 flash:lmi_sd_list_08_24_95.txt
```

## スピードダイヤルとファストダイヤルのユーザインターフェイス：例

次の例は、スピードダイヤルおよびファストダイヤルに対するユーザインターフェイスの設定が、電話機 12 でディセーブルになっていることを示しています。

```
ephone 12
  no phone-ui speeddial-fastdial
  ephone-template 5
  mac-address 000F.9054.31BD
  type 7960
  button 1:10 2:7
```

## 次の作業

電話機ごとにスピードダイヤル設定の作成または変更が終了したら、電話機をリブートして、変更された設定をダウンロードする必要があります。「電話機のリセットと再起動」(P.371)を参照してください。

### DSS コール転送

モニタ回線ボタンのスピードダイヤル（ダイレクトステーション選択（DSS）コール転送とも呼ばれる）を使用すると、モニタされている回線ボタンを使用して、その内線番号にスピードダイヤルすることができます。DSS 転送中の打診を可能にする場合は、「コール転送とコール自動転送の設定」(P.773)を参照してください。

## その他の参考資料

次の各項では、Cisco Unified CME 機能に関連するその他の資料について説明します。

## 関連資料

関連項目	参照先
Cisco Unified CME の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco Unified CME Command Reference』</li> <li>『Cisco Unified CME Documentation Roadmap』</li> </ul>
Cisco IOS コマンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Voice Command Reference』</li> <li>『Cisco IOS Software Releases 12.4T Command References』</li> </ul>
Cisco IOS の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>『Cisco IOS Voice Configuration Library』</li> <li>『Cisco IOS Software Releases 12.4T Configuration Guides』</li> </ul>
Cisco Unified CME 用の電話機のマニュアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>『User Documentation for Cisco Unified IP Phones』</li> </ul>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ログイン ID またはパスワードを取得していない場合は、Cisco.com でまず登録手続きを行ってください。	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>

# スピードダイヤルに関する機能情報

表 132 に、このモジュールで説明した機能、およびバージョンごとの拡張機能を示します。

特定の Cisco Unified CME バージョンをサポートするための適切な Cisco IOS リリースを判断するには、[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/cucme/requirements/guide/33matrix.htm](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucme/requirements/guide/33matrix.htm) にある『Cisco Unified Communications Manager Express and Cisco IOS Software Version Compatibility Matrix』を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator では、特定のソフトウェア リリース、フィーチャ セット、またはプラットフォームをサポートしている Cisco IOS ソフトウェア イメージを確認できます。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、<http://www.cisco.com/go/cfn> に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。



(注) 表 132 には、特定の機能に対するサポートを導入した Cisco Unified CME のバージョンが示されています。特に明記されていない限り、Cisco Unified CME ソフトウェアの後続のバージョンでもこの機能をサポートします。

表 132 スピードダイヤルに関する機能情報

機能名	Cisco Unified CME バージョン	機能情報
スピードダイヤル	4.3	SCCP 電話機に、スピードダイヤルおよびファストダイヤルをプログラミングするためのユーザ インターフェイスが追加されました。
	4.1	Cisco Unified CME 内の SIP 電話機に対する、ローカルおよび個人短縮ダイヤル メニューのサポートが追加されました。
	4.0(2)	電話機ユーザが、スピードダイヤル回線またはモニタ回線ボタンを 1 つ押して、コールを高速転送することができる、DSS サービスのサポートが追加されました。
	4.0	Cisco Unified CME 内の SCCP 電話機に対する、パルクスピードダイヤル リストのサポートが追加されました。
	3.4	Cisco Unified CME 内の SIP 電話機に対する、短縮ダイヤル ボタンのサポートが追加されました。
	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco Unified CME 内の SCCP 電話機からの、個人短縮ダイヤルのサポートが追加されました。</li> <li>作成可能なスピードダイヤル定義の数が、4 から 33 に増えました。</li> <li>電話機でスピードダイヤル番号をプログラムする機能が導入されました。</li> <li>スピードダイヤル番号をロックする機能が導入されました。</li> </ul>
	1.0	<b>speed-dial</b> コマンドを使用したスピードダイヤルが導入されました。

